学会誌編集委員会セッション「LNT 仮説への挑戦」

学術振興会産学協力委員会　分野横断委員会の発足

Multi-disciplinary Committee in JSPS

和田　隆宏[1]

[1]関西大学

1.　はじめに

「放射線の生体影響の分野横断的研究」研究開発専門委員会（以下本委員会）が、日本学術振興会の産学協力総合研究連絡会議のもとに 2015 年 10 月に発足した。本委員会は、その名の通り（低線量）放射線の生体への影響に関して分野を横断する学界と関係する産業界が協力して研究や開発を進めるものである。以下にその意義と目的について述べたい。

2.　委員会発足にいたるまで

東京電力福島第 1 原子力発電所事故後、低線量放射線リスクに対する評価が、科学者の間で極端に分かれおり、放射線リスクに対する動物実験や疫学調査の結果を統合した理解が求められている。そのためには、分野を超えた徹底した議論と数理科学的手法が必要であり、既存の分野・学会にとどまらない学際的な共通プラットフォームが必要とされる。このような認識のもとで活動していた科学者グループを中心に委員会設立を提案するに至った。

3. 委員会の特徴と目的

この委員会は委員に若手を起用し、政治やイデオロギーを背景とする価値観に左右されず、実証的で、既存の分野の学問的成果を新鮮な目で分析することで、従来の領域固有の固定概念をのりこえた合意形成の気風を作り上げることを目指している。本委員会の最大の目的は、低線量放射線の生体影響の学際研究のための共通プラットフォームの立ち上げに必要な分野横断の研究母体を作るため、これまで交流の少なかった放射線生物学と疫学、物理学などの分野の研究者が徹底的に議論できる場を提供し、分野間交流の実績を上げることである。低線量放射線の影響に関する統合的な理解に向けて、これまでの知見をレビューすると共に、新たな知見に向けて学際的な議論を活性化し、同時に産業界とも緊密に連携を取り、低線量・低線量率放射線の計測技術や、がんを発見・診断する際の被ばくの副作用を定量化するためのこれまでの活動をレビューし、次のステップを目指すものである。

4. 今後に向けて

本委員会は、発足後 1 年に満たないが、がんと放射線の関連について講師を招いて議論したり、放射線防護の基本原則となっている直線しきい値無しモデル（LNT）についての歴史的・科学的レビューを行ったりと活発に活動をしているところである。今後も海外からも含めて様々な分野の講師を招いて知見を広めると共に講師を交えた議論を行い、また委員が長時間議論できる場を作ってさまざまなバックグランドをもつ委員の間の意見交換を進める。これらの成果は、様々な形で社会に向けて発信していく予定である。

*Takahiro Wada[1]

[1]Kansai Univ.